

CO-2-ii-01	薬理学Ⅱ	第2学年	後期 必修	1.5単位
担当者	成田 年・芝崎 真裕			
一般目標 (GIO)	神経系に作用する薬物に関する基本的知識を修得する。			
到達目標 (SBOs)	<p>【中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。Narcolepsy(ナルコレプシー)について説明できる。 ・全身麻酔薬、鎮痛薬の薬理作用を説明できる。 ・てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ・不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ・うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ・統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。薬物依存症、アルコール依存症について説明できる。 ・Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ・脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。脳炎・髄膜炎(重複)について説明できる。 ・認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ・中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。 <p>【化学構造と薬効】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。 			
受講心得・準備学習等	薬の作用機序と病態をそれぞれよく理解しておく必要がある。			
事後学習・復習等	教科書を中心として、事後学習・復習等をしっかり行うこと。			
オフィスアワー	原則、講義のある日の14:00~18:00			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義形式	
回	項目	内容	担当者
1	神経系の基礎	神経系の基礎と神経系疾患の社会生活への影響	成田
2	催眠薬(1)	催眠薬の薬理作用および使用法(1) / 化学構造と薬効	成田
3	催眠薬(2)	催眠薬の薬理作用および使用法(2) / ナルコレプシー	成田
4	麻酔薬と鎮痛薬	麻酔薬と鎮痛薬の薬理作用およびその使用法 / 化学構造と薬効	成田
5	てんかんの治療薬	抗てんかん薬の薬理作用および使用法 / 化学構造と薬効	成田
6	不安・神経症の治療薬 および気分障害の治療薬(1)	不安を中心とした神経症の発症機序とならびにうつを中心とした気分障害の発生機序とその治療薬の薬理作用と使用法(1) / 化学構造と薬効	成田
7	不安・神経症の治療薬 および気分障害の治療薬(2)	不安を中心とした神経症の発症機序とならびにうつを中心とした気分障害の発生機序とその治療薬の薬理作用と使用法(2)	成田
8	不安・神経症の治療薬 および気分障害の治療薬	不安を中心とした神経症の発症機序とならびにうつを中心とした気分障害の発生機序とその治療薬の薬理作用と使用法(3)	成田

	薬(3)		
9	統合失調症の治療薬(1)	統合失調症の発症機序ならびにその治療薬の薬理作用と使用法(1)／化学構造と薬効	成田
10	統合失調症の治療薬(2)	統合失調症の発症機序ならびにその治療薬の薬理作用と使用法(2)	成田
11	統合失調症の治療薬(3)および中枢興奮薬	統合失調症の発症機序ならびにその治療薬の薬理作用と使用法(3)ならびに中枢興奮薬の薬理作用と使用法	成田
12	パーキンソン病の治療薬	パーキンソン病の発症機序ならびにその治療薬の薬理作用と使用法／化学構造と薬効	成田
13	脳血管疾患の治療薬	脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞、くも膜下出血)および薬物依存症、アルコール依存症の発症機序ならびにその治療薬の薬理作用と使用法／化学構造と薬効	芝崎
14	認知症の治療薬	認知症(アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症等)の発症機序ならびにその治療薬の薬理作用と使用法／化学構造と薬効	成田

成績評価の方法	成績評価は本試、追再試験によって行う。
成績評価の基準	本試験の点数が 60% 以上を合格とする。 追再試験は筆記試験(口頭試問(レポート)を追加する場合があります)を行い、総合点が 60% 以上を合格とする。
教科書	成田 年編「分子病態薬理学 I」(京都廣川書店) 成田 年監修「疾患薬理学」(ネオメディカル)
参考書など	

